

社会調査における接触率・協力獲得率・回収率と住居形態

—JGSS に基づくオートロック付き集合住宅の分析—

○大阪商業大学 孟哲男

大阪商業大学 岩井紀子

大阪商業大学 吉野智美

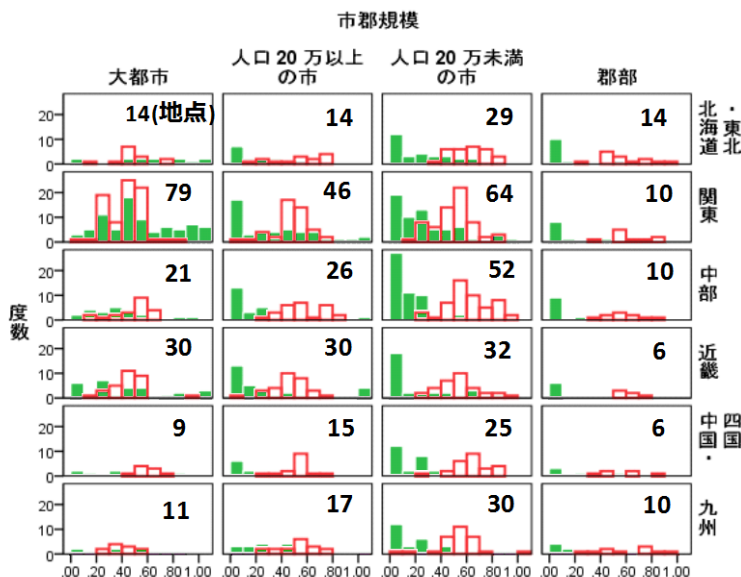
1 目的

日本における全国規模の反復横断型の社会調査の回収率は、調査を企画した主体にかかわらず、長期的に低下している。回収不能の理由のなかでは、「拒否」が最も多く、次に「一時不在」が多い。集合住宅、とくに建物の入口にオートロックのある集合住宅は、調査対象者への接触をはばみ、居留守（一時不在に分類）や拒否を容易にしていると指摘されてきた。本報告では、JGSS が調査の際に収集している居住形態の情報を基に、接触率、協力獲得率、回収率への影響を分析する。

2 JGSS-2000～2016 の回収率・拒否率・一時不在率・接触率・協力獲得率・集合住宅の割合

		J00*	J01*	J02*	J03A**	J05**	J06	J08	J10	J12	J15	J12***	J15***	J16***
標本数		4500	4500	5000	3578	4500	8000	8000	9000	9000	4500			2100
調査地点数		300	300	341	489	307	526	529	600	600	300	600	300	140
回収率		69%	66%	62%	55%	51%	60%	59%	62%	59%	53%	54%	48%	51%
拒否率		21%	21%	24%	30%	35%	26%	25%	24%	25%	30%	25%	29%	28%
一時不在率		7%	9%	9%	10%	9%	10%	11%	10%	11%	11%	15%	17%	16%
接触率						67%	69%	67%	69%	67%	64%	62%	59%	61%
協力獲得率						67%	77%	78%	80%	77%	72%	78%	75%	76%
全体	一戸建て					75%	73%	73%	75%	71%	74%	60%	63%	69%
	集合住宅					25%	27%	27%	25%	29%	26%	40%	37%	31%
	オートロック(全体)									7%	7%	10%	11%	9%
(完了票)集合住宅		21%	21%	19%	19%	19%	21%	21%	19%	22%	21%	33%	31%	25%

*謝礼先渡し、**謝礼後渡し、06以降は半分先渡し、***25～49歳、居住形態は他に「不明」有。



J12の各地点の回収率（白抜き棒）と集合住宅の割合（塗りつぶし棒）

3 分析結果

接触率は、調査対象者の性別(男性が低い)、年齢(若年低い)、居住地の人口規模(大都市ほど低い)、地域ブロック（関東と近畿で低い）をコントロールしても、一戸建てに比べて、集合住宅の居住者で低く、オートロック付きではさらに低い。接触できた後の協力獲得率については、一戸建てと集合住宅で差はないが、オートロック付きでは有意に低い。結果として回収率は、集合住宅で低く、オートロック付きでさらに低い。

[Acknowledgment] 日本版 General Social Survey は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合社会調査共同研究拠点）が実施している研究プロジェクトである。JGSS-2000～2008 は学術フロンティア推進拠点、JGSS-2010～2012 は共同研究拠点の推進事業、JGSS-2015 は JSPS 科研費 26245060 (研究代表: 岩井紀子)、大阪商業大学アミューズメント産業研究所(谷岡一郎)、日本経済研究センター研究奨励金(岩井紀子)、JSPS 科研費 24243057 (加藤真義)、JGSS-2016 は JSPS 科研費 15H03485 (岩井八郎)、労働問題に関する調査研究助成金(岩井八郎)を受け、またすべてについて大阪商業大学の助成・支援を受けて実施した。